

# 平成25年度（第12期）事業計画書

（平成25年6月1日から平成26年5月31日まで）

特定非営利活動法人 東上まちづくりフォーラム

## 1. 事業実施の方針

### (1) 特定非営利活動に係わる事業

「ビジネス助っ人隊」「地域支え合い事業（お助け隊）」「とくとく市民大学」の3つの事業を基幹となるものと位置づけ、それぞれに担当の理事も置いて、その活性化を図ってきた。それぞれ「働く」「支え合う」「楽しむ」という3つのキーワードでアピールもしてきた。

しかしながら、収益面から見たとき、それぞれが継続できるまでのサステナブルな事業になりえているか、というと必ずしもそうではない。第12期は、WAM（独立行政法人福祉医療機構）に申請していた事業計画が採択されたということも踏まえて、こうした事業の再編も視野に入れていかななくてはならない。

#### ① 地域資源の再発見と人材開発の場の提供

「ビジネス助っ人隊」における第12期の新しい動きは、営業攻勢を行う点にある。昨年度、都内の人材会社からの委託を受けて、入力管理業務を受託したが、そうしたニーズが他の人材会社にもあるという事で、そこに着目して営業を行う。そうした動きが「ビジネス助っ人隊」にとっての中興の題材になればと考えている。

今年度も、新規プロジェクトに対しての「1件あたり20万円のインキュベーションフィー」の制度は、継続するが、理事会での承認の基準は、今までよりも厳しくなると予想される。

また、同じビルに入る職業訓練校から業務委託を受ける形で行っている講師受託業務も、今まで通り継続して実施していく。

「障害者就労施設・シニア背代連携事業」は、埼玉県からの公募に応じて業務受託につながった事業で、障害者の作業施設に対しての商品開発のコンサルテーションや販路開拓支援を、1年弱行ってきた。今年度も、この事業を継続し、すでに成果をあげている、障害者団体制作のTシャツや和紙などの販売支援（販路開拓や商品開発）業務をさらに進展させていく。こうした動きは、ビジネス助っ人隊の営業助っ人隊が行ってきた動きでもあり、今後とも東上まちづくりフォーラムの活動の柱の一つとなっていく可能性をもった活動である。その意味では、本事業にさらに人員も増強できるようになればいい。

#### ② まちづくり提案とプロジェクト活動

会員の自主的な提案を元としたプロジェクトが動いており、現時点では以下のプロジェクトが稼働している。今年度は、各プロジェクトが順調に発展していくことを期待しているが、同時にプロジェクト間の連携や、収益面での前進（コミュニティビジネス化への動き）を加速して行く。

- ・「志木市地域支え合いプロジェクト」は、3年間にわたり県から補助金を受け、志木市商工会の事業を、東上まちづくりフォーラムが業務受託して実施してきたものである。現時点では、利用者200名・ボランティア登録者100名程度までに増員し、事業が始まった当初から比較すれば、大きな発展をしてきている。平成25年4月からは県の助成が切れており、独自の自主運営が課せられている。
- ・「ハートプロジェクト」は、障害者及び高齢者にとっても今や生活に欠かせないIT（パソコン、インターネット）利用の支援を行い、障害者にはホームページ制作を通し就業支援も行う。
- ・「にぎわいプロジェクト」は、商店街の活性化を目指して、商工会の協力を得ながら志木市内や南西部地域でコミュニティビジネスの模擬店や産直品販売等のイベントを行い、志木市では地域支え合いプロジェクトを盛り上げる。
- ・「防災プロジェクト」は、マンションの管理組合や商店街、企業等に対して自主防災組織の立上げ支援や防災訓練の支援等を行う。県の炊出し応援隊にも登録しており、セミナーや勉強会の講師や防災グッズを取り扱う企業の商品の紹介等を通じて収益も得ていこうと活動を開始している。
- ・「住まいと地域の絆」プロジェクトは、平成23年、県からの委託事業「参加体験型地域力アップ事業」を実施した結果、その中から東上の自主事業として継続を決定したプロジェクト。分譲マンションの修繕に関

する支援業務等を通じてコミュニティビジネス化を図っている。

- ・「ILC 国際村」プロジェクトは、やはり上記「参加体験型地域力アップ事業」をベースとして、その後立ちあがった独自事業プロジェクト。地域のグローバル対応力アップを目的とし、市民レベルでできることからフォーラムとして始めていく。独自に会員制(会費)を設けている。
- ・「ジモトのおやつ」プロジェクトは、県南西部地域振興センターからの委託で、平成21年6月から平成24年3月まで実施した「地域ブランド商品の開発」事業から生れた「ジモトのおやつ」ブランドを、平成24年4月から継続したプロジェクト。「埼玉県南西部『ジモトのおやつ』実行委員会」という3年間続いた組織を継承した「埼玉県南西部ジモトのおやつ協議会」の事務局を現在は東上まちづくりフォーラムが務めており、地域内のイベント等で、「ジモトのおやつ」の旗を掲げて東上線ラスク等の販売を行ったりしている。

また、上記の既存プロジェクトを一部含みこみつつ、今年度新しく立ちあがるプロジェクトが「交流サロン・お手伝い隊連携ハッピー事業」となる。これは、(独)福祉医療機構(WAM)の助成金申請が採択されたことを受けて始まるもので、高齢者を対象とした交流の場づくりを行っていくものであり、下記に述べるように、今までの「とくとく市民大学」での活動も引継ぎ、糾合するといった動きとなっていく。

### ③住民交流の場づくり

上記で紹介した「交流サロン・お手伝い隊連携ハッピー事業」のなかで、高齢者等が気軽に立ち寄りコミュニケーションできる場として「ハッピーサロン」を開設する。ここは単に会話をするだけでなく、高齢者の孤立を防ぐために、趣味・生きがい教室、病気予防・健康づくり講座を開催し「とくとく市民大学」の一部講座を引き継ぐ。

住民交流の場づくりという観点では、他に「にぎわい」プロジェクトのメンバーが中心となつては、他のプロジェクトとも連携して、地元商店街でのイベント開催や地域商品の販売等を行っていく。

### ④上記事項に関する情報提供事業

当NPO法人自体の広報宣伝活動はもとより、団塊世代等へ向けた地域活動に関する情報を提供し、NPO活動について遍く啓蒙を行う。

### ⑤その他目的を達成するために必要な事業

必要に応じて実施する。

## (2) その他の事業

### ①地域物品等の販売

引き続き、ジモトのおやつ関連の商品の販売を一部行っていくが、その規模や数量は、かなり限定されたものとなる。

### ②中小企業、非営利活動法人の経営支援

経営支援を担当できる人材を、質・量ともに高め、また東上まちづくりフォーラムの得意分野を充実させるための方策として、各種学習会の実施などを検討する。また、商工会議所、商工会などの地域企業を支援する団体等との連携を強め、関与できる企業、団体を増やしていく。

### ③個人を対象とした教育、出版

特定非営利活動に係わる事業においても、その他の事業においても、事業を側面から支援し、またそのノウハウを残し広めていくためにも、教育、出版事業は大きな意義がある。12期に関しては、IT関連資格取得を目的とした講座を開設する。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施予定日	実施予定場所	従事者の 予定人数	受益対象者の 範囲および予 定人数	支出見込み 額(千円)
地域資源の 再発見と人材 開発の場の 提供	「ビジネス助っ人 隊」事業	通年	埼玉県全域	30人	地元企業やN PO法人(約 100社)	1,650
	障害者就労施設・ シニア背代連携事 業	通年	埼玉県全域	5人	地域の作業所	7,000
まちづくり提 案とプロジェ クト活動	交流サロン・お手 伝い隊連携ハッ ピー事業	通年	志木市、新 座市	10人	対象者 200 名、ボランティ ア100名	3,000
	ハートプロジェクト (障がい者・高齢 者IT支援)	通年	埼玉県全域 (出張研修可 能)	10人	障がい者・高 齢者100人、 その支援団体 (20団体)	180
	その他のプロジェ クト	通年	東上線沿線 を中心とした 埼玉県全域	50人	市民層	-
住民交流の 場づくり	にぎわい プロジェクト	通年	埼玉県南西 部	10人	埼玉県南西 部、特に志木 市の商店街	120
	地域力アップ プロジェクト	通年	埼玉県南西 部	5人	埼玉県南西部 NPO、住民	0
上記事項に 関する情報提 供事業	ホームページ、展 示会、活動案内チ ラシ	通年	東上まちづく りフォーラム 事務局	3人	-	50
その他目的を 達成するため に必要な事業	必要に応じて実施	通年	東上まちづく りフォーラム 事務局	-	-	-

### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施予 定日	実施予定場所	従事者の 予定人数	支出見込み 額(千円)
地域物品等 の販売	地域ブランド商品 の販売	通年	埼玉県南西部 の商品を首都 圏近郊へ販売	4人	50
中小企業、非 営利活動法 人の経営支 援	コンサル、営業支 援	通年	埼玉県全域	10人	770
個人を対象と した教育、出 版	IT 関連資格取得 講座	通年	埼玉県全域	10人	80